

写真説明：いちじく



●●● 現地報告

米国：食生活指針の新たなシンボル

中川 圭子

米国農務省(USDA)が策定する食生活指針(5年ごとに改定)の「一日に何をどれだけ食べたらよいか」を分かりやすく国民に伝えるために、1992年に「フードガイドピラミッド」が発表された。2005年には「フードガイドピラミッド」に代わって食事と運動の組み合わせが重要であることを示す「マイピラミッド」が発表された。そして2011年1月に食生活指針が改定されたことに伴い、長年親しまれた「ピラミッド」が抜本的に見直され、これに代わる食品摂取のシンボルとして「マイプレート」(右図)が6月2日に公表された。

「マイプレート」は皿の半分を果実・野菜で埋め、残る半分に穀類とタンパク質の食品を取り入れ、これに乳製品一品目を加えることで、バランスのとれた食事となることを示している。2010年版食生活指針の主旨である「理想的な食事」を国民が一目で把握できるように作られたこのシンプルな画像を消費者の脳裏に焼き付けて、より健康的な食品の選択を奨励しようとするのが、指針の意図である。

「マイプレート」の基盤となった2010年版食生活指針策定の背景には、子供の3分の1以上、成人の3分の2以上が太り過ぎあるいは肥満の範疇に属し、これ

に起因する慢性疾患の発症率の増大とそれに伴う医療費の増加という米国社会の現状が横たわっている。こうした状況を打開するための対策として、食生活指針では高カロリーで栄養価に劣る食品を、低カロリーで栄養価の高い食品の代表といえる果実・野菜に置き換えることを勧めている。

USDAは過去1世紀近くに亘り、「適切な食品摂取」のメッセージを画像化し、国民に示して来た。今回導入された皿半分のコンセプトは、米国青果業界内の非営利組織、健康増進青果財団(Produce for Better Health Foundation / PBH)によって、2007年に考案されたものである。果実・野菜の適正摂取量をカップ、サービング、グラムといった単位で示しても、忙しい現代人の多くは実施が困難である。そこでザックリと、「皿半分を果実・野菜で埋めましょう」と呼びかけて、青果物摂取の重要性を喚起する彼らの作戦が、米国連邦政府の政策として、そのまま取り入れられた。科学的根拠に基づく果実・野菜の摂取拡大活動を展開するPBHの動向は、今後も米国連邦栄養政策に、多大な影響を及ぼし続けるものと推察される。



2010年版米国食生活指針における1日当たりの果物摂取奨励量

大人・子供	年齢	カップ
幼児	2~3歳	1
	4~8歳	1~1.5
子供(女子)	9~13歳	1.5
	14~18歳	1.5
子供(男子)	9~13歳	1.5
	14~18歳	2
大人(女性)	19~30歳	2
	31~50歳	1.5
	51歳以上	1.5
大人(男性)	19~30歳	2
	31~50歳	2
	51歳以上	2

1カップ当たりの果実の量

品目	量
リンゴ	大(直径8.3cm) 1/2個
	小(直径6.4cm) 1個
バナナ	大(20~22.9cm) 1本
グレープフルーツ	中(直径10.2cm) 1個
オレンジ	大(直径7.8cm) 1個
モモ	大(直径7cm) 1個
ナシ	中(180グラム) 1個
100%果汁	1カップ

- 目次 -

現地報告

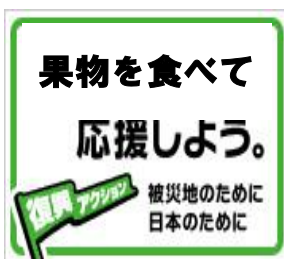
- 米国 1
- ブラジル 2
- タイ 2

果樹産業の動向

- ・マレーシアが食品表示規制を強化 2
- ・果物の価格は本当に高いか? 3
- ・カリフォルニア州の果実消費量は10年間で大幅に増加 3
- ・世界のカンキツの需給 4
- ・図表で見る世界の果樹産業：パインアップル缶詰の輸出 7

トピックス

- ・中国の生鮮リンゴ輸出価格は依然上昇 8



ブラジル：オレンジの生産予想・ミカンキジラミ防除対策ほか

中田 秀信

〈オレンジの生産予測〉

全国カンキツ果汁輸出業者協会(CitrusBR)は加盟会社(クトラレ, シトロスコ, シトロヴィータ, ルイ・ドレフュス)がそれぞれ調査したオレンジの収穫予測を集計し、サンパウロ州と同州北部地方に続くミナス・ジェライス州トリアングロ・ミネイロ地方を合わせたオレンジ生産を3億 8,700万箱(40.8kg/箱)と発表した。

一方、ブラジル・カンキツ生産者協会(Associtrus)の生産予測は3億 1,500万~3億 3,000万箱と、CitrusBRの予測より7,200万~5,300万箱少ない。なお、国家供給公社(CONAB)はサンパウロ州農務局農業経済研究所(IEA)と提携し、サンパウロ州の生産は前農年より19.3%多い3億 5,500万箱との生産予測を発表した。

CitrusBRはオレンジの生産樹数を1億 6,500万本と予測しているが、これに基づくと1本当たりの生産性(収量)は約2.35箱となり、サンパウロ州の過去10年間の平均生産性である1.87箱を25.7%上回っている。(2011年6月26日付け「ヴァロル」紙)

〈ミカンキジラミ防除対策〉

サンパウロ州ではカンキツグリーニング

病が各地に広まっており、カンキツ防衛基金(Fundecitrus)は7月19日、冬季にカンキツグリーニング病の媒介昆虫であるミカンキジラミの防除キャンペーンを行うと発表した。

サンパウロ州農務局は健全な苗木(ウイルスフリー)の植え付けを奨励すると共に、羅病樹の発見と早期伐採、媒介昆虫の駆除を生産者に義務付けている。しかし、カンキツグリーニング病は他州へも伝搬しており、このままではサンパウロ州のオレンジ産業界に重大な損害を与えると関係者は憂慮している。

Fundecitrusによると、2010年に一定地域のカンキツ生産者が一斉に媒介昆虫を駆除するための試験的な薬剤散布を行ったところ、カンキツグリーニング病を抑制する効果があることが判明した。このため、Fundecitrusは州内のカンキツ産地を地域別に分けた生産者グループを結成し、冬季の休眠期間中に薬剤を一斉(1週間以内)散布することで、春先の開花期におけるミカンキジラミの繁殖を抑制する計画である。

(2011年7月19日付けの「CitrusBRニュース」)

〈最低水準の濃縮オレンジ果汁の在庫〉

全国カンキツ果汁輸出業者協会(CitrusBR)によると、2011年6月30日現在の濃縮オレンジ果汁の在庫は前年同期を14%下回り、世界の消費量の僅か6日分に相当する21万4,300トンと数年来の低水準に落ち込んでいる。

在庫水準が下がった主な要因はサンパウロ州のオレンジが2年連続で減産となり、また、米国におけるインフルエンザ(冬季)の蔓延で一時的な消費の増加を反映したものである。このため、CitrusBRは前農年より8,000箱多い3億 3,000箱をオレンジ会社が買上げ、処理・加工するものと試算している。在庫水準を回復するためにオレンジ果汁会社間の原料確保競争が激化し、生産者価格は値上がりするものと市場関係者は予想している。

CitrusBRによると、現在の濃縮オレンジ果汁の輸出価格はトン当たり2,000ドル台であるが、先物価格は2,600ドルに値上がりしており、当分の間はこの価格を維持するものと予測している。

(2011年7月21日付け「ヴァロル」紙)

タイ：豪州産カンキツ類に対する輸入条件の見直し

中元 進弘

農業局局長によると、現在、タイは豪州から年間300~400トンのカンキツ類を輸入しているが、今年に入って豪州産のスイートオレンジからフラワーバラゾウムシ(Fuller's rose weevil)の成虫および卵の付着が検出された。このため同局は7月1日付けで豪州産オレンジの輸入条件の見直し措置を講じ

た。これまで豪州産のカンキツ類は条件付きで輸入が認められていたが、品種を制限してスイートオレンジ(ネーブル, バレンシア), エレンデール, マーコット, レモン(リスボン)とするほか、輸入を認める産地をミバエの非汚染地域および豪州の5州(ニューサウスウェールズ, クイーンズランド, 南オース

トラリア, ビクトリア, 西オーストラリア)に限定するなど、新たな措置を講じている。

(出所:2011年7月20日付け「デリーニューズ」紙ほか、農業局ウェブサイト参照)

果樹産業の動向

マレーシアが食品表示規制を強化

Good Fruit Grower 誌 (2011年7月号 :www.goodfruit.com)

米国北西部園芸協議会によると、8月1日以降のマレーシア向け果実輸出にあたっては段ボール箱にマレーシアの公用語であるマレーシア語での表示をしなければならなかったという。

当初マレーシア政府は2011年1月1日にマレーシア語での表示義務を導入するとしていたが、7月1日まで施行が延期されていた。北西部

園芸協議会はマレーシア政府に対し、マレーシアの港に着いた後、輸入業者が段ボール箱にマレーシア語で表記されたラベルを貼るという方法を認めるよう申し立てしているものの、認められそうにないという。パッカーはマレーシア語を印刷できるプリンターを調達してラベルを刷り上げ、選果場ではなく船積み場で段ボール箱に貼付することになる。ラベルへの表示義

務事項はサイズ、等級、重量、品種となっている。

〈翻訳の問題〉

問題を複雑にしているのは、マレーシアの輸入業者がしばしばリンゴやナシについていくつかの品種あるいは等級の混載を求めるとのことである。また北西部園芸業界にマレーシアの公用語マレーシア語が分かる人

間がないということも大きな問題である。パッカーはマレーシアの輸入業者と協力して英語からマレーシア語への的確な翻訳をし、船積みによって作業現場で混乱を招かないようにするために英語とマレーシア語両方を併記したラベルを用意することが必要になるという。

この表示規制はマレーシア向けに輸出する全ての国を対象としたものであるが、北西部園芸協議会によるとこれは米国というより中国あるいはタイを標的

としたものだろうという。マレーシアは東南アジア諸国からの熱帯果実の輸入が増大していることに注目しており、これを抑制したいと考え表示規則を厳しくしたとみられるという。

北西部園芸協議会によると、表示規則問題は東南アジア諸国が世界経済のグローバル化が進む中で旧来の貿易関連規則を見直そうという動きの一環であると理解すべきであり、東南アジア諸国は WTO やコーデックスといった国際機関のメンバーとなっているもの

の、いざ欧米へ輸出しようとするような輸入障壁に直面し、こういった事態を前にして欧米に対抗し得るよう自らも貿易関連規則を見直さなくてはならないと考えるようになった事の表れであるとされている。

他に、ベトナムが最近植物検疫規則を見直し、米国産リンゴ、ナシ、オウトウについて新しい病害虫の輸入リスク評価システムを導入した。

果物の価格は本当に高いか？

World Apple Report 誌 (2011年6月号)



人々が果実・野菜をもっと食べようとしない理由は、価格が高過ぎるからだということがしばしば云われる。最近米国農務省 (USDA) 経済研究所の Hayden Stewart 研究員を中心とする研究チームが、2010年版米国食生活指針で示している1日当たり目標摂取量である「果物2カップ、野菜2.5カップ」を摂取するのにどれだけのお金がかかるかを試算した。

同チームは、ニールセンの家計調査 (2008年) のデータを基に、青果物の平均小売価格および果実59種類、野菜94種類計153種類の生鮮または加工品の可食部1カップ当たりのコストを算出した。算定に当たっては家計購入量をそのまま用いるのではなく、消費するにあたって予め取り除かれる皮や芯等の非可食部や実際に調理に向けられる数量等を調整して摂取可能と見られる量が用いられた。例えば、小売店で購入した1ポンド (453.6g) のパイナップルの可食部は0.51ポンド (231.3g) とされている。

<可食量ベースでは低価格品が多い>

青果物の小売価格は1ポンド当たりで僅か26セントのスイカもあれば、7.29ドルもするラズベリーもある。

しかし可食部1カップ当たりに換算してみると、8種類の果物 (スイカ、バナナ、リンゴ、ネーブルオレンジ、ナシ、ハネデューメロン、スモモ、ネクタリン) はいずれも50セント未満となっている。缶詰果実2品目 (アップルソース、パイ

ナップル) も50セント未満である。さらに6品目の果実は1ポンド当たり1ドルにも満たない。果汁についても可食部1カップ相当量で見ると10品目が50セント未満である。冷凍リンゴ果汁は可食部1カップで見ると僅か20セントと最も安い。すぐに飲める非冷凍リンゴ果汁はこれより少し高く、1カップ当たり26セントとなっている。

野菜については生鮮物8品目、加工品5品目が可食部1カップ当たり50セント未満、さらに缶詰野菜10品目、冷凍物4品目が1カップ当たり50セント未満となっている。

<リンゴ製品が最も経済的である>

この調査ではリンゴについては生鮮、缶詰ソース、非冷凍果汁、冷凍果汁、乾燥の5つの種類を調査対象としている。それぞれの可食部1カップ当たり平均価格は、生鮮物28セント、ソース46セント、非冷凍果汁26セント、冷凍果汁20セント、乾燥51セントとなっている。消費者があまりお金をかけずに食生活指針に従おうとするならば、リンゴ加工品を利用するのがよいということになる。

<食生活指針の目標は達成可能>

報告書では、食生活指針で示している果実2カップ、野菜2.5カップという量は、一人1日当たり2~2.5ドルの金額で摂取できるとしている。様々な果実と野菜を組み合わせても目標達成は可能である。青果物の小売り店頭での価

格というのは、可食部1カップ当たりのコストを示すものとしては適切ではないものの、可食部当たりでみると生鮮・加工品を問わず、果実や野菜というのはそんなに金のかかるものではない。

<懸念材料>

研究結果は、食生活指針の果実・野菜に関する目標水準の達成にはそれ程お金をかけずにできることを再確認させるものであったが、一方で懸念材料も見つかった。一つは、消費者が果物や野菜は高いと思い込んでおり、どうすれば果実・野菜を低コストで摂取することが可能かを理解していないことである。青果物関係業界として、消費者の先入観を取り除き果実や野菜に対する正しい理解を普及させる取り組みが必要である。

もう一つは、大半の消費者は食生活指針の示す果実・野菜の摂取がそれ程お金をかけずにできるということを知っているものの、それを実践しないで果実・野菜以外の食品にお金をかけようとするのである。こういった消費者行動を変化させようとするならば、経済的に安上がりだと説くだけでは不十分である。深く染み込んだ消費者の認識を変えさせることは、誤った認識を是正させることよりはるかに難しいことである。青果物関係業界としては、様々な消費者階層間の違いを見極め、正しい認識の普及と認識を変化させる取組みという2正面作戦が必要となるであろう。

カリフォルニア州の果実消費量は10年間で大幅に増加

The Packer 誌 (2011年6月27日)

5 a Day 運動発祥の地であるカリフォルニア州は、果実・野菜消費のル

ネッサンスの地でもあったと最近発表された研究で明らかにされた。

Journal of Nutrition Education and Behavior 誌の最新号 (<http://>

www.tinyurl.com /Calconsume で入手可)によると、1997年から2007年の10年間でカリフォルニア州の果実・野菜の消費量は37%増加したという。同誌によるとこのような大幅増加は、青果物をたくさん摂取する移民人口の増加、さらには10年来の栄養教育及び対象を絞り込んでの栄養指導の成果であるという。

2007年のカリフォルニア州の成人の果実・野菜平均摂取量は、1日当たり5単位を上回っている。1997年には3.75単位であった。1997年に1日当たり5単位以上摂取している成人人口は全体の3分の1であったが、2007年にはこの比率は50%となっている。

しかし、これは24時間以内に何を食べたかについてカリフォルニア州全域を対象として行われた調査の結果によるもので、Center for Disease Control and Prevention(CDC:疾病予防管理センター)の発表しているデータより高くなっている。CDCによると、2007年には1日当たり3単位以上の野菜を摂取している成人人口の全国平均は27.45%に対し、カリフォルニア州成人人口は25.6%であるとしている。果物については、1日当たり2単位以上を摂取している成人人口の割

合は全米平均で32.9%なのに対し、カリフォルニア州では40.6%であるとしている。

カリフォルニア州についての調査は、この24時間の間に何を摂取したかを自己申告方式で電話調査した結果に基づいており、このような調査はカリフォルニア州以外では行われていないためデータを比較できないものの、米国全体の青果物消費動向はこの10年間変わっていないのではないかとカリフォルニア州ではみている。

Journal of Nutrition Education and Behavior 誌の分析によると、カリフォルニア州での青果物摂取量の増加傾向は2003年に始まり、現在も続いているという。最新の2009年調査によると、不況にもかかわらずカリフォルニア州の青果物摂取量の増大傾向は続いているという。2011年の調査結果が明らかになるのは来年である。

カリフォルニア州が運動を開始した1998年以降、低所得階層の果実や野菜消費の増大のためにUSDAの補助栄養助成事業(Supplement Nutrition Assistance Program)を活用しているという。この事業では2003年に始まった広報活動をはじめとした大規模キャンペーン活動も対象として

いる。USDAとカリフォルニア州公衆保健局が調査事業を助成している。

＜研究報告への反応＞

カリフォルニア州立大学のCook女史によると、別の青果物産業界関連データによると西海岸の果実・野菜向け消費支出は他地方に比べ多いという。2008年のデータによると、西海岸地域(カリフォルニア州のウェイトが極めて高い)の家庭の年間果実・野菜向け支出額は743ドルであったのに対し、全米平均値は628ドルであったという。

＜まだ摂取量増大の可能性ある＞

カリフォルニア州は、順調な経済のもとで青果物摂取量は既に高いレベルに達しているとはいうものの、今後も①低所得階層を対象とした女性、幼児や児童向け果実・野菜の無料配布券、②2012/13年度に開始される学校給食栄養対策事業、③USDAが食品ピラミッドに代わる「Food Plate」事業で、皿の半分は果実や野菜としよと呼びかけていること等により果実・野菜摂取量を増大させることも可能だろうという。

また、果実や野菜の地産地消推進も消費者にアピールするという。

世界のカンキツの需給

米国農務省海外農業局HP (2011年7月公表)



＜オレンジ生産は急増、貿易は減速＞

2010/11年の世界の生産量は5,380万トンで、1月の予測に比べて5%増えている。ブラジルは、開花期および果実肥大期に極めて良好な気象条件となったことから18%急増して2,020万トンとなっている。南アフリカは、開花期における雹を伴う嵐により影響を受けた。世界の貿易量は370万トンで、主に南アフリカの生産量の減少により2%減少すると見積もられてい

る。しかし、米国の貿易量は韓国および中国からの強い需要によって引き続き増加すると期待されている。

＜オレンジ果汁の生産・貿易は拡大＞

世界の生産量230万トンは、ブラジルの増産により大量の果実が加工用に利用可能であるとの見通しにより、1月の予測より5%拡大した。輸出量は60万トンで6%の増加見通しとなっているものの、世界の需要増加により米国の

貿易量が40,000トン、またブラジルが17,000トン急増している。

＜タンゼリン/マンダリンの貿易量増大＞

世界の生産量は2,010万トンと予測されているものの、EU-27カ国において果実肥大期に低温に見舞われたことおよびアルゼンチンの主要生産地域において開花に影響を与える厳しい干ばつがあったことから、1月の予測より1%減少となっている。

主要国におけるオレンジの需給

(単位:1,000トン)

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
アルゼンチン	2008/09	900	1	137	570	194	カナダ	2008/09	0	177	0	177	0
	2009/10	770	1	157	530	84		2009/10	0	204	0	204	0
	2010/11	580	3	100	413	70		2010/11	0	205	0	205	0
豪州	2008/09	430	16	134	177	135	中国	2008/09	6,000	66	155	5,729	182
	2009/10	380	19	96	198	105		2009/10	6,500	80	158	6,220	202
	2010/11	430	18	120	188	140		2010/11	5,500	85	95	5,310	180
ブラジル	2008/09	17,014	0	28	5,275	11,711	コスタリカ	2008/09	310	77	6	185	196
	2009/10	15,341	0	37	4,737	10,567		2009/10	370	60	5	190	235
	2010/11	20,196	0	41	6,079	14,076		2010/11	410	70	5	195	280

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
エジプト	2008/09	3,500	0	774	2,666	60	ロシア	2008/09	0	436	6	430	0
	2009/10	3,570	0	845	2,655	70		2009/10	0	478	2	476	0
	2010/11	3,645	0	750	2,820	75		2010/11	0	600	1	599	0
EU-27	2008/09	6,530	846	236	5,869	1,271	サウジアラビア	2008/09	0	302	0	302	0
	2009/10	6,343	964	272	5,933	1,102		2009/10	0	306	0	306	0
	2010/11	6,134	900	325	5,764	945		2010/11	0	310	0	310	0
グアテマラ	2008/09	135	43	0	178	0	シンガポール	2008/09	0	42	5	37	0
	2009/10	135	40	0	175	0		2009/10	0	41	6	35	0
	2010/11	135	40	0	175	0		2010/11	0	41	5	36	0
香港	2008/09	0	176	53	123	0	南アフリカ	2008/09	1,445	2	869	135	443
	2009/10	0	193	62	131	0		2009/10	1,428	1	1,045	135	249
	2010/11	0	190	60	130	0		2010/11	1,309	1	930	135	245
イスラエル	2008/09	155	155	28	73	54	スイス	2008/09	0	61	0	61	0
	2009/10	148	148	22	80	46		2009/10	0	64	0	64	0
	2010/11	140	140	20	82	38		2010/11	0	62	0	62	0
日本	2008/09	6	96	0	102	0	トルコ	2008/09	1,430	45	256	1,119	100
	2009/10	4	104	0	108	0		2009/10	1,690	30	209	1,411	100
	2010/11	3	120	0	123	0		2010/11	1,710	32	345	1,297	100
韓国	2008/09	0	71	0	71	0	ウクライナ	2008/09	0	118	0	118	0
	2009/10	0	108	0	108	0		2009/10	0	121	0	121	0
	2010/11	0	140	0	140	0		2010/11	0	145	0	145	0
マレーシア	2008/09	12	90	1	101	0	アラブ首長国連邦	2008/09	0	132	0	132	0
	2009/10	12	83	1	94	0		2009/10	0	186	0	186	0
	2010/11	12	80	1	91	0		2010/11	0	185	0	185	0
メキシコ	2008/09	4,193	13	18	3,188	1,000	米国	2008/09	8,281	90	493	1,264	6,614
	2009/10	3,600	22	26	2,766	830		2009/10	7,479	106	668	1,347	5,570
	2010/11	4,100	16	20	3,246	850		2010/11	7,963	90	740	1,463	5,850
モロッコ	2008/09	790	0	305	453	32	ベトナム	2008/09	600	58	0	658	0
	2009/10	823	0	161	627	35		2009/10	600	56	0	656	0
	2010/11	904	0	190	674	40		2010/11	600	55	0	655	0
モザンビーク	2008/09	20	40	0	60	0	合計	2008/09	51,751	3,036	3,504	29,291	21,992
	2009/10	20	53	0	73	0		2009/10	49,213	3,357	3,772	29,603	19,195
	2010/11	20	55	0	75	0		2010/11	53,791	3,481	3,748	30,635	22,889
ノルウェー	2008/09	0	38	0	38	0	注:年度は収穫と販売期間を表し、北半球では10月/9月。南半球のほとんどの国では収穫は2番目の年に行われ、収穫の後、販売も始まる。例えば2010/11年度の場合2011年に収穫され、販売が始まる。						
	2009/10	0	37	0	37	0	アルゼンチンは1月/12月、南アフリカは2月/1月、豪州は4月/3月、ブラジルは7月/6月となっている。						
	2010/11	0	38	0	38	0							

世界のオレンジ果汁の需給

(単位:1,000トン(65°Brix))

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
豪州	2008/09	10	25	1	35	0	メキシコ	2008/09	105	1	99	7	2
	2009/10	7	31	1	37	0		2009/10	82	1	76	7	2
	2010/11	11	30	1	39	1		2010/11	85	1	79	7	2
ブラジル	2008/09	1,273	0	1,283	34	128	モロッコ	2008/09	3	1	2	3	0
	2009/10	1,100	0	1,190	34	4		2009/10	4	1	2	3	0
	2010/11	1,440	0	1,240	35	169		2010/11	4	1	2	3	0
カナダ	2008/09	0	112	3	109	0	ロシア	2008/09	0	44	0	44	0
	2009/10	0	105	1	104	0		2009/10	0	45	0	45	0
	2010/11	0	105	2	103	0		2010/11	0	54	0	54	0
中国	2008/09	14	43	5	60	4	南アフリカ	2008/09	40	0	17	10	13
	2009/10	16	60	4	61	15		2009/10	22	0	16	12	8
	2010/11	14	42	4	62	5		2010/11	22	0	18	10	4
EU-27	2008/09	99	963	40	1,022	15	トルコ	2008/09	9	7	1	14	1
	2009/10	85	779	45	819	15		2009/10	9	7	1	14	1
	2010/11	73	800	45	828	15		2010/11	9	7	1	14	1
イスラエル	2008/09	5	27	16	16	0	米国	2008/09	761	228	90	865	498
	2009/10	4	26	15	16	1		2009/10	605	236	106	832	401
	2010/11	4	29	17	16	0		2010/11	645	190	155	791	290
日本	2008/09	0	75	0	73	12	合計	2008/09	2,326	1,550	1,558	2,322	676
	2009/10	0	64	0	71	5		2009/10	1,944	1,381	1,458	2,088	454
	2010/11	0	67	0	67	5		2010/11	2,313	1,351	1,565	2,060	494
韓国	2008/09	7	23	1	30	2	注:1トン(65°Brix)=344.8ガロン(42°Brix)=1,392.6ガロン(11.8°Brix:ストレート換算)						
	2009/10	10	26	1	34	2							
	2010/11	7	24	1	30	2							

主要国におけるタンゼリン/マンダリンの需給

(単位: 1,000 トン)

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
アルゼンチン	2008/09	400	0	113	190	97	モロッコ	2008/09	532	0	332	200	0
	2009/10	360	0	119	150	91		2009/10	635	0	323	312	0
	2010/11	280	3	95	120	68		2010/11	716	0	350	366	0
カナダ	2008/09	0	121	0	121	0	フィリピン	2008/09	23	49	0	72	0
	2009/10	0	124	0	124	0		2009/10	20	41	0	61	0
	2010/11	0	125	0	125	0		2010/11	20	40	0	60	0
中国	2008/09	12,650	11	740	11,371	550	ロシア	2008/09	0	520	2	518	0
	2009/10	14,200	9	712	12,977	520		2009/10	0	593	1	592	0
	2010/11	12,500	10	620	11,470	420		2010/11	0	700	1	699	0
EU-27	2008/09	3,172	377	258	2,930	361	南アフリカ	2008/09	155	0	102	10	43
	2009/10	3,083	417	267	2,810	423		2009/10	146	0	113	9	24
	2010/11	3,216	360	360	2,769	447		2010/11	155	0	120	9	26
インドネシア	2008/09	0	168	0	168	0	トルコ	2008/09	756	3	382	377	0
	2009/10	0	160	0	160	0		2009/10	846	4	330	520	0
	2010/11	0	190	0	190	0		2010/11	855	7	450	412	0
イスラエル	2008/09	139	0	54	57	28	ウクライナ	2008/09	0	113	0	113	0
	2009/10	150	0	67	56	27		2009/10	0	144	0	144	0
	2010/11	160	0	77	57	26		2010/11	0	185	0	185	0
日本	2008/09	1,007	9	3	904	109	米国	2008/09	449	131	29	440	111
	2009/10	1,088	11	3	970	126		2009/10	577	128	34	529	142
	2010/11	968	22	2	893	95		2010/11	616	140	52	544	160
韓国	2008/09	593	0	1	503	89	ベトナム	2008/09	0	256	0	256	0
	2009/10	740	0	3	613	124		2009/10	0	202	0	202	0
	2010/11	610	0	2	523	85		2010/11	0	200	0	200	0
マレーシア	2008/09	0	74	0	74	0	合計	2008/09	19,876	1,832	2,016	18,304	1,388
	2009/10	0	75	0	75	0		2009/10	21,845	1,908	1,972	20,304	1,477
	2010/11	0	65	0	65	0		2010/11	20,096	2,047	2,129	18,687	1,327

注: 年度は北半球が10月/9月, 南半球は4月/3月。

主要国におけるグレープフルーツ需給

(単位: 1,000 トン)

国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
アルゼンチン	2008/09	237	2	17	90	132	ロシア	2008/09	0	86	0	86	0
	2009/10	140	2	11	60	71		2009/10	0	112	0	112	0
	2010/11	140	2	13	60	69		2010/11	0	125	0	125	0
カナダ	2008/09	0	48	0	48	0	南アフリカ	2008/09	370	0	210	4	156
	2009/10	0	46	0	46	0		2009/10	343	1	187	5	152
	2010/11	0	45	0	45	0		2010/11	377	0	221	4	152
中国	2008/09	2,520	6	102	2,424	0	スイス	2008/09	0	8	0	8	0
	2009/10	2,900	7	119	2,788	0		2009/10	0	8	0	8	0
	2010/11	2,600	10	95	2,515	0		2010/11	0	7	0	7	0
EU-27	2008/09	85	399	21	435	28	トルコ	2008/09	168	5	128	45	0
	2009/10	103	385	21	445	22		2009/10	191	5	154	42	0
	2010/11	112	380	22	444	26		2010/11	210	6	160	56	0
香港	2008/09	0	16	4	12	0	ウクライナ	2008/09	0	16	0	16	0
	2009/10	0	18	4	14	0		2009/10	0	21	0	21	0
	2010/11	0	18	5	13	0		2010/11	0	25	0	25	0
イスラエル	2008/09	233	0	85	6	142	米国	2008/09	1,183	12	247	388	560
	2009/10	235	0	84	44	107		2009/10	1,123	12	242	389	504
	2010/11	225	0	90	31	104		2010/11	1,116	7	225	348	550
日本	2008/09	0	180	0	180	0	合計	2008/09	5,228	789	825	4,074	1,118
	2009/10	0	168	0	168	0		2009/10	5,461	795	840	4,460	956
	2010/11	0	170	0	170	0		2010/11	5,210	805	846	4,168	1,001
メキシコ	2008/09	432	11	11	332	100							
	2009/10	426	10	18	318	100							
	2010/11	430	10	15	325	100							

主要国におけるレモン／ライムの需給

(単位：1,000トン)

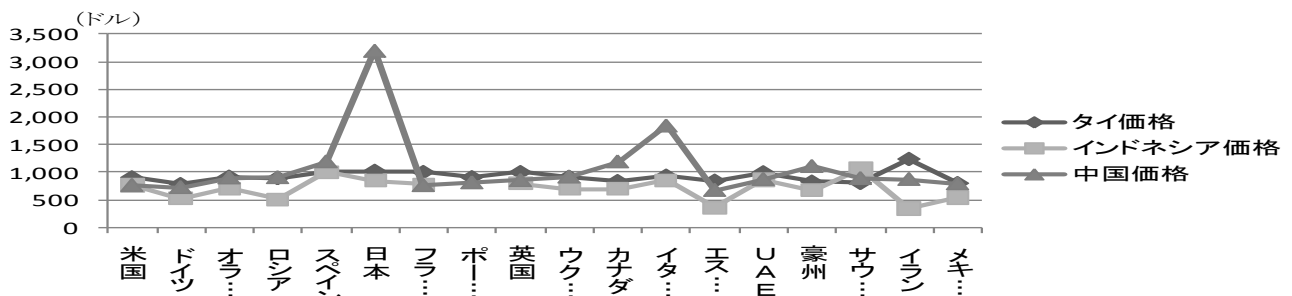
国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量		国名	年度	生産量	輸入量	輸出量	国内消費量	
					生鮮	加工						生鮮	加工
アルゼンチン	2008/09	1,350	5	250	55	1,050	ロシア	2008/09	0	203	5	198	0
	2009/10	1,000	7	264	45	698		2009/10	0	211	1	210	0
	2010/11	1,300	3	270	60	973		2010/11	0	230	1	229	0
カナダ	2008/09	0	58	0	58	0	サウジアラビア	2008/09	0	125	0	125	0
	2009/10	0	65	0	65	0		2009/10	0	104	0	104	0
	2010/11	0	73	0	73	0		2010/11	0	105	0	105	0
EU-27	2008/09	1,263	405	87	1,364	217	南アフリカ	2008/09	214	0	130	11	73
	2009/10	1,159	469	67	1,393	168		2009/10	218	0	145	11	62
	2010/11	1,200	420	80	1,319	221		2010/11	220	0	146	12	62
香港	2008/09	0	27	8	19	0	トルコ	2008/09	672	5	351	296	30
	2009/10	0	21	6	15	0		2009/10	783	1	434	290	60
	2010/11	0	25	7	18	0		2010/11	782	1	450	273	60
イスラエル	2008/09	29	5	2	31	1	ウクライナ	2008/09	0	58	0	58	0
	2009/10	48	0	2	44	2		2009/10	0	62	0	62	0
	2010/11	50	0	3	45	2		2010/11	0	65	0	65	0
日本	2008/09	6	52	0	56	2	アラブ首長国連邦	2008/09	0	60	0	60	0
	2009/10	7	53	0	58	2		2009/10	0	61	0	61	0
	2010/11	8	55	0	61	2		2010/11	0	60	0	60	0
メキシコ	2008/09	1,966	1	461	1,192	314	米国	2008/09	827	398	93	787	345
	2009/10	1,850	1	458	1,098	295		2009/10	800	401	93	738	370
	2010/11	1,880	1	432	1,144	305		2010/11	853	395	102	782	364
モロッコ	2008/09	45	0	0	45	0	合計	2008/09	6,372	1,402	1,387	4,355	2,032
	2009/10	46	0	6	40	0		2009/10	5,911	1,456	1,476	4,234	1,657
	2010/11	50	0	7	43	0		2010/11	6,343	1,433	1,498	4,289	1,989



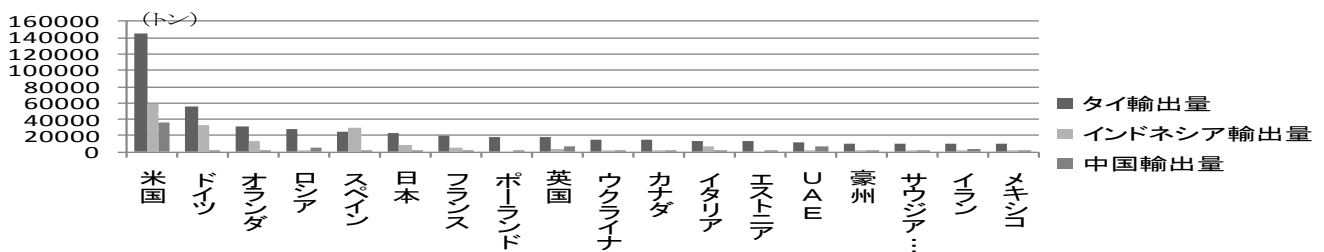
図表で見る世界の果樹産業：パイナップル缶詰の輸出

FAOホームページ (2011年2月公表)

タイ、インドネシアおよび中国におけるパイナップル缶詰の仕向地別輸出価格(2008年)



タイ、インドネシアおよび中国におけるパイナップル缶詰の仕向地別輸出量(2008年)



仕向地	米国	ドイツ	オランダ	ロシア	スペイン	日本	フランス	ポーランド	英国	ウクラ	カナダ	イタリア	エスト	UAE	豪州	サウジ	イラン	メキシ	
輸出国	輸出価格(ドル/トン)																		
タイ	908	789	920	897	1,004	1,022	1,001	910	1,000	917	842	937	849	997	832	812	1,232	806	
インドネシア	762	528	705	505	1,004	847	784		799	697	701	856	359	863	672	1,058	341	545	
中国	763	725	900	906	1,195	3,208	760	811	852	917	1,193	1,846	673	872	1,109	889	878	794	
	輸出量(1,000トン)																		
タイ	145	56.2	31.6	28.4	24.6	22.7	19.8	18.7	18	15.6	14.8	13.2	12.7	12.2	10.7	10.5	10.5	10.3	
インドネシア	59.3	32.9	13.7	0.5	29.3	8	5.1		4.3	1.6	0.2	7		0.4	2.1	1.6	0.04	1	
中国	36.9	1	0.9	5.4	0.2	0.02	0.3	0.4	6.3	0.6	0.4	0.05	0.5	6.4	0.2	0.01	4.1	1.8	

(財) 中央果実基金

(財)中央果実生産出荷安定基金協会

住所
〒107-0052
東京都港区赤坂 1-9-13
三会堂ビル 2階

電話 (03)3586-1381
FAX (03)5570-1852

お知らせ

第1号のニュースレターの中で「読者アンケート」をお願いしましたが、まだ回答されていない方は、ご多忙中のところ大変恐縮ですが、今後の編集の参考とさせていただきますので、ご返送よろしくをお願いいたします。

また、読者の皆様からの積極的なご要望も歓迎しますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

□□□□□□□□□□□□□□

毎日くだもの200グラム運動メールマガジン「くだもの&健康ニュース」を創刊しました。

多くの方の読者登録をお待ちしております。

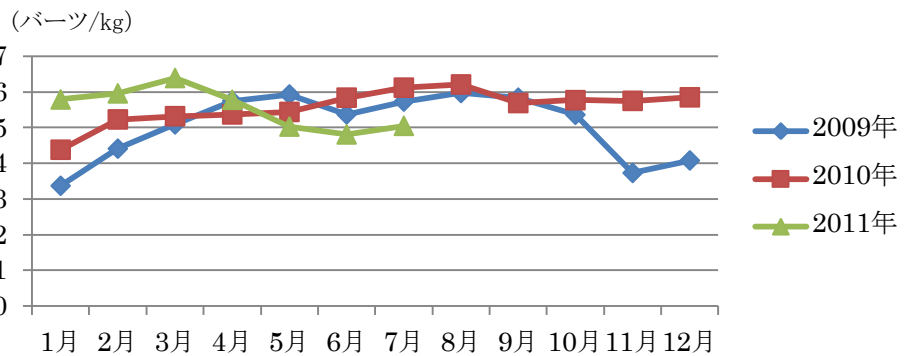
メルマガの読者登録方法とバックナンバーは当協会ホームページをご覧ください (<http://www.kudamono200.or.jp/JFF/>)。



毎日くだもの200グラム運動

本誌の翻訳責任は、(財)中央果実生産出荷安定基金協会にあり、翻訳の正確さに関して Washington State Fruit Commission (Good Fruit Grower), Belrose 社 (The World Apple Report) 及び Vance Publishing 社 (The Packer) の各社は、一切の責任を負いません。

タイにおける加工用パインアップル(未選)の月別農家庭先価格



出所:タイ農業経済局

トピックス

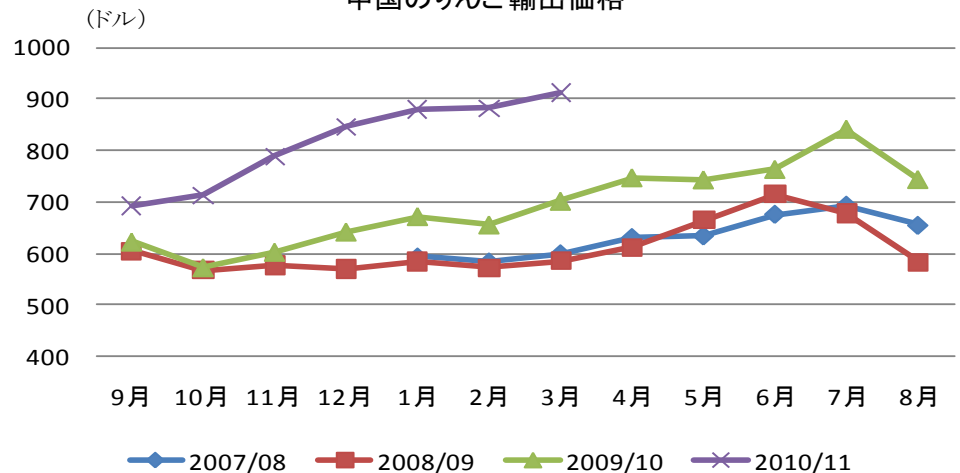
中国の生鮮リンゴ輸出価格は依然上昇

World Apple Report 誌 (2011年7月号)

1989年から2005年の間において、中国からの生鮮リンゴの輸出価格は一貫してトン当たり400ドルを下回って推移しており、ほとんどの主要市場において競争相手よりも大幅に安く販売していた。しかしながら、2006年1月の初めに、連続して価格が400ドルを上回るレベルに動いた。最近の4シーズンにおいては、2007年9月の初めに価格が継続して新しい高さに動いた。2009年6月にはトン当たり700ドルを初めて超え、2010年7月には800ドル、2011年3月には900ドルを超えた。増加の25%はUSドルに対する元の価値の上昇の

結果であると考えられるが、他方、価格上昇に主として寄与しているのは生鮮リンゴに対する中国の国内需要の強さであることを示唆する証拠がある。中国における好景気によって、さらに多くの消費者が生鮮リンゴを買うことができるようになってきている。輸出業者は入手可能な生鮮リンゴの商品に、より高い価格を付けさせられている。ある時点で、中国におけるリンゴの国内供給量が増加する需要量に追い付くであろう。しかしながら、最近における経験は、中国はもはや世界の生鮮リンゴ市場に対する低コスト供給国とみなすことはできないことを示している。

中国のりんご輸出価格



本誌についてのご質問、お気づきの点などがある場合、または他に転載する場合には、左記上にご一報くださるようお願いいたします。許可なくしての転載および複写(コピー)は著作権の侵害となることがありますのでご注意ください。